1 計画策定の趣旨

埼玉県北東部に位置する本市は、平坦な地形で、古くは宿場町として、権現堂川や江戸川を中心とした舟運により繁栄し、江戸時代に多くの新田が開かれ農業も盛んになりました。市域には広大な水田と河川や多くの水路があり、現在でも豊かな水辺環境と良好な田園風景を見ることができます。

本市では、市が抱える様々な環境問題の解決と良好な環境の保全、回復及び創出を図るため、2004(平成16)年12月に「幸手市環境基本計画」(目標年度:2025(令和7)年度)(以下、「前計画」という。)を策定し、市民・事業者・市が協働して環境づくりに取り組む指針を示して、環境づくりを推し進めています。

そして、翌2005(平成17)年12月には幸手市環境基本条例を制定して、環境保全と創造に関する考え方及び施策の基本的事項を定め、市民・事業者・市の協働のもと各種の環境施策に取り組んできました。

近年、本市においては、旧宿場町を中心とした市街地周辺の住宅開発、首都圏中央連絡自動車道(圏央道)幸手インターチェンジの開設、幸手中央地区産業団地の整備など市を取り巻く環境は大きく変化しています。一方で、人口減少、少子高齢化が進展しており、それを踏まえた環境保全やまちづくりの取組が課題となっています。

社会全体では持続可能な開発目標(SDGs[※])が様々な場面で意識されるようになり、社会全体の脱炭素(カーボンニュートラル)[※]へ向けた急速な動き、気候変動[※]への適応策の推進、自然再興(ネイチャーポジティブ)[※]や循環経済(サーキュラーエコノミー)[※]の推進など、環境行政を取り巻く状況に大きな変化が生じており、こうした課題への対応が必要となっています。

本市を取り巻く状況や社会情勢の著しい変化に対応し、前計画で定めた環境像の実現に向けた取組を推進するとともに、2024(令和6)年3月に策定した「第6次幸手市総合振興計画 基本構想・後期基本計画」との調和を図り、幸手市の環境づくりを市民、事業者、市の協働により総合的に推進するため、前計画の期間を前倒しし、2025(令和7)年7月を開始とする第2次幸手市環境基本計画(以下、「本計画」という。)を策定することとしました。

また、本計画の策定により、温室効果ガス[※]の排出の削減等のための方針、取組の内容を示すことで、2050年二酸化炭素排出量実質ゼロに取り組むことを表明する「ゼロカーボンシティ[※]」の宣言を目指します。